

1. 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み出す圏域

| 「近畿圏の目指す姿」   | 「戦略」(各機関からの提案内容)  |
|--|---|
| <p>○古くから都が置かれ、自然や地勢とあいまって、長い年月をかけて多様な文化を創造・継承・蓄積してきた日本文化(日本のアイデンティティ)の象徴圏域となる。</p> <p>○関西に残る多くの歴史・文化資産や多様性と厚みを兼ね備えた細やかな伝統工芸、生活、食、風土、眺めなどの本物の日本固有の文化を大切に保全し、次代に継承する。</p> <p>○質にこだわった細やかなまちづくり、ものづくり、ひとづくりにより、技術、意匠、コンテンツ、ライフスタイルなどの新たな本物を創造する。</p> <p>○関西各地に残る固有の資源(伝統・文化・風景等)を核として、個性あふれる国際競争力の高い観光地域づくりを行い、関西全体として世界に名だたる国際観光圏域となる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各都市・地域の固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりや、自然と一体となった日本の原風景の再生を進める</li> <li>② まちづくりや景観整備を通して、文化財や技能など有形・無形の文化資源を保全する(防災含む)</li> <li>③ 先端産業と伝統産業の融合や、新たな技術・コンテンツ等の創造により、文化産業を振興する(ブランドの確立)</li> <li>④ 文化に関連する国の機関や創造的な人材を集め、関西を「文化首都」として世界に発信する</li> <li>⑤ 歴史遺産等の文化資産を歴史・文化の学習・体験の場として活用する</li> <li>⑥ 既存不適格の歴史文化資産について、それぞれの資産や地域性に応じた特別の対策を講じることで建築基準法の特例を受け、改築しても元の状態に戻すことが可能になり、次代に継承する</li> <li>⑦ 豊岡のコウノトリのように、地域固有の資産を核とした産業・暮らし・まちづくりを行うことで、各地域のブランド化を図る</li> <li>⑧ 観光客が観光の魅力を楽しめる多様なメニューを提供する</li> <li>⑨ 観光拠点間の回遊や閑空や歴史都市へ連結する交通ネットワークを整備する</li> <li>⑩ 閑空以外の圏域も含む瀬戸内海沿岸域全体が連携して振興を図る。</li> <li>⑪ 外国人旅行者に対する受入体制・インフラを整備する</li> <li>⑫ 旅行ニーズに対応した旅行商品を開発する</li> <li>⑬ 「観光立国」を先導する重点地域として整備する</li> <li>⑭ 食文化など、「食」を観光資源として活用した観光を振興する</li> <li>⑮ 観光資源の活用により、地域を振興する</li> <li>⑯ 歴史・文化と食のブランド化をすすめ、魅力と新しい発見がある観光の都づくりを進める</li> <li>⑰ 国内外に歴史・文化観光資源を積極的に情報発信する</li> <li>⑱ 新たな観光資源の開発や周辺地域も含めた一体的な景観・環境整備を進める</li> <li>⑲ 文化・観光名所をリストアップする</li> </ol> |

2. 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核

| 「近畿圏の目指す姿」   | 「戦略」(各機関からの提案内容)   |
|--|--|
| <p>○関西は、人口、経済力、情報等において日本の中で首都圏に次ぐ集積を維持する。</p> <p>○個性の異なる都市・地域が競争・協調しつつ、多彩な文化、暮らし、産業が息づき、生活の豊かさを実現する、首都圏とは異なる日本のもう一つの中心核となる。</p> <p>○非常時には首都機能をバックアップを担う。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本の中核機能(政治・行政機能、経済機能、科学・教育・文化・情報機能、国際機能)に関して首都圏を補完・代替する</li> <li>② 三重・畿央地域への首都機能移転を進める</li> <li>③ 「1.」～「7.」までの戦略により、関西都市圏の魅力・ポテンシャルをさらに高め、わが国国土における拠点的功能を集積していく</li> <li>④ 税制等の優遇措置を講じることにより、世界企業の本社を近畿圏に誘致する</li> <li>⑤ インターネット技術等を活用し、内外に直接近畿圏の情報を受発信する体制を構築する</li> </ol> |

※ 戦略については、各機関から提出された全ての提案等をもとに、同種の内容のものを集約した上で、表現を整理して記載しています。  
 なお、各機関から提出された提案の正確な表現については、資料5-2「各機関戦略集約表」を参照して下さい。

### 3. アジアをリードする世界に冠たる交流・産業拠点

| 「近畿圏の目指す姿」   | 「戦略」(各機関からの提案内容)  |
|--|---|
| <p>○京阪神都市圏が、関西の産業を牽引し、活力の源であるエンジンとなる。</p> <p>○これからの関西のエンジン産業として、次世代産業やクリエイティブ産業を位置づけ、これにより多様で層の厚いものづくり基盤産業や成長が期待される新産業を牽引する。</p> <p>○アジアをはじめ世界の優秀な人材が関西を拠点に密度の高い交流を展開し、創造性に富んだ人や企業が活発に活動し、他地域にない独創性豊かなイノベーションを創出する圏域となる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 大阪湾ベイエリアを西日本の中核的産業物流拠点と位置づけて重点的に投資し、アジアゲートウェイとしての機能を強化する</li> <li>② 国際基幹航路を意識し、日本海側のゲートウェイとして舞鶴港・敦賀港を位置づけ、大阪湾ベイエリアと連携する物流拠点とし整備する</li> <li>③ 関西のエンジン産業として、バイオ、ライフサイエンスや未来型情報家電・ロボット、高機能部材・高エネルギー機器装置、環境・リサイクル産業等の次世代産業を育成する</li> <li>④ 成長が期待される映像、音楽、アニメ、ゲーム等のクリエイティブ産業を育成する</li> <li>⑤ ベイエリアと日本海側等、陸・海・空の拠点を結ぶ交通ネットワークを整備する</li> <li>⑥ 大阪湾ベイエリアと他圏域も含めた背後圏とを結ぶ国内物流ネットワーク強化や、国際分業への対応を進めることでアトドアのトータル時間・トータルコストを低減する</li> <li>⑦ 新産業のイノベーションを創出、既存産業のリノベーションの推進のための産学官の連携を強化し、世界最高水準の知的資源・産業拠点を形成する</li> <li>⑧ 企業誘致促進のための社会基盤インフラ(ガス、電力、工業用水等)を整備する</li> <li>⑨ エネルギー関連技術等を活用した研究開発機能を強化し、国際的な人材の育成や新産業の創出を通して原子力技術による国際貢献する</li> <li>⑩ 日本やアジアの意識の高い消費者をターゲットに、おいしさや安全・安心、環境配慮などを強みとする高付加価値農産品(地域ブランド)を生産する</li> <li>⑪ 関空の24時間化を活かして、国内外へさらにきめ細かな航空ネットワークを形成し、東アジア地域との日帰り交流圏の拡大や世界各地との往來を容易にする</li> <li>⑫ 優れた大学・研究機関の集積を活かし、人材育成・研究機関の拠点を形成するとともに、政治・経済・文化・学術などの国際交流を促進する</li> <li>⑬ 関西への投資を促進するため、都心部の魅力を高め、効果的に情報発信する</li> <li>⑭ ブローバンド・ゼロ地域の解消を目指し、条件不利地域の情報格差を是正する</li> <li>⑮ 次世代環境技術の産業化を促進する環境ビジネスを振興する</li> <li>⑯ 近畿圏と他圏域との交流を促進するための交通ネットワークを整備する</li> <li>⑰ アジア地域の情報を収集し、アジアの情報拠点となるアジア情報センターを設立する</li> <li>⑱ 裾野の広い大企業を誘致することにより、安定した仕事量を確保することで、優れた技術を持つ中小のものづくり企業の地位向上を図り、後継者不足を解消する</li> <li>⑲ 都市内の交通渋滞対策により渋滞を緩和することで、企業のポテンシャルを最大限発揮できていない企業がその持てる力を発揮できる環境を整える</li> <li>⑳ 世界標準規格となった45フィートコンテナ輸送に対応した荷役施設・物流基幹ネットワークの整備や、関税・出入国管理・検疫に係る特別開庁手続きの簡素化・手数料の減免など、ハード・ソフト一体となってトータル時間・トータルコストを削減する</li> </ol> |

※ 戦略については、各機関から提出された全ての提案等をもとに、同種の内容のものを集約した上で、表現を整理して記載しています。  
 なお、各機関から提出された提案の正確な表現については、資料5-2「各機関戦略集約表」を参照して下さい。

#### 4. 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域

| 「近畿圏の目指す姿」  | 「戦略」(各機関からの提案内容)  |
|---|---|
| <p>○関西に息づく自然との共生を大切にす価値観を継承し、圏域全体で豊かな自然環境の保全・再生に積極的に取り組み、環境先進地域として存在感のある圏域となる。</p> <p>○人間活動の結果発生する廃棄物等について、圏域全体で効率的に3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進める循環型社会を構築する。</p> <p>○太陽電池など高い技術を有する環境関連産業や研究機関の集積を活かし、環境技術やライフスタイル・まちづくり等を提案し、地球環境問題の解決という面で世界に貢献する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① CO2排出量等の圏域として達成すべき目標を設定し、圏域全体で環境をマネジメントする</li> <li>② 琵琶湖・淀川流域圏大阪湾の生態系や水環境等を総合的に保全・再生する</li> <li>③ 環境関連技術や新エネルギーの開発を進める</li> <li>④ 循環型社会を構築する(3R、環境負荷の低減、バイオマス、新エネルギーの利用促進、官民協働など)</li> <li>⑤ 環境共生型の都市づくりを進める(ヒートアイランド対策、低公害車、LRT、緑のネットワークなど)</li> <li>⑥ 途上国において課題となる環境技術等の知的財産保護等に関する情報提供や必要な投資環境を整備する</li> <li>⑦ テレワーク環境を推進し、交通渋滞や大気汚染などの環境負担を低減する</li> <li>⑧ 企業等からの寄付による税の減免等により、企業等からの寄付を募り、それを基に基金を創設し、環境改善に関する民間レベルの取り組みを支援する</li> <li>⑨ 府県間のCO2排出権取引のような制度を構築することにより、府県の得意分野を活かしながら圏域全体での環境対策を推進する</li> <li>⑩ 近畿圏共通のディーゼル車排出ガス規格を定め適合車以外の通行を禁止することにより、ディーゼル車の低公害化を進めるとともに、近畿圏一円に戦略的にエコ・ステーション(天然ガス・水素ガス等)や低公害車共同利用施設を設置することにより、低公害車の普及促進を図る</li> </ol> |

#### 5. 都市と自然の魅力を日常的に享受できる圏域

| 「近畿圏の目指す姿」  | 「戦略」(各機関からの提案内容)  |
|---|---|
| <p>○自然に近接して個性ある都市が発達した関西の特長を活かし、どこに住んでも自然的魅力と都市的魅力の双方を同時に享受でき、多様なライフスタイルを提供できる圏域となる。</p> <p>○大都市部は、それぞれの都市が持つ個性を生かしながら、生産流通その他の業務、教育、文化、娯楽、医療等において、圏域を代表するような高度な都市機能を発揮し、圏域の発展に積極的に貢献し、中心的役割を担う。</p> <p>○地方都市部は、中心市街地への都市機能の集約と周辺の地域を結ぶ公共交通ネットワークによる集約型都市構造を構築し、暮らしやすさや都市の持続的発展等を確保する。</p> <p>○農山漁村は、都市との地域間交流の促進や地域密着型産業等により、持続可能な地域社会を構築し、その多面的機能を発揮する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 都市と農山漁村が適度に分散した環境・国土を維持する(農山漁村の暮らしを守る、国土保全から農地を守る)</li> <li>② 都市と農山漁村との交流を促進し、交流人口を増やす</li> <li>③ 二地域居住など多様なライフスタイルを可能とする仕組みを整備する</li> <li>④ 美しい都市景観・快適な都市居住空間づくりを進める</li> <li>⑤ 圏域の成長を牽引する都市機能の集積し、人材が集まる環境を整備するなど、大都市を再生する</li> <li>⑥ 各地域に集客拠点を形成し、歩いて暮らせる環境を整備するなど、コンパクトシティのまちづくりを進める</li> <li>⑦ 都市型農業の展開や企業の農業参入など、農業の構造改革を進める</li> <li>⑧ 都市の農山漁村の交流を支える情報通信・交通ネットワークの整備</li> <li>⑨ ニュータウンの再生等、人口減少に対応した都市機能を再整理する</li> <li>⑩ スプロール化が進む地域では、市街地を計画的に縮小・撤退する(敷地の集約化、空地の管理、住宅から農地等への転換など)</li> <li>⑪ 各地域の地産地消を推進する</li> <li>⑫ 地域食材を活用した新たな戦略食品を創出する</li> <li>⑬ 都市・地域の得意分野を活かした役割分担を明確化して個性あるまちづくりを行うとともに、それぞれの都市・地域が相互に活用するためのネットワークを形成する</li> </ol> |

※ 戦略については、各機関から提出された全ての提案等をもとに、同種の内容のものを集約した上で、表現を整理して記載しています。  
 なお、各機関から提出された提案の正確な表現については、資料5-2「各機関戦略集約表」を参照して下さい。

## 6. 人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域

| 「近畿圏の目指す姿」  | 「戦略」(各機関からの提案内容)   |
|---|--|
| <p>○関西の全ての生活圏域で、医療・福祉・教育・防犯・消防・買い物・娯楽等の都市機能が確保され、地域コミュニティのある安心して暮らせる圏域を形成する。</p> <p>○多くの人々が集まる公共的な空間を中心に、ユニバーサルデザインの理念に基づき、高齢者、障害者などの多様な人々が自由に参画し、いきいきと暮らせる空間を形成する。</p> <p>○関西の全ての地域で、子育てに夢が持てる地域社会を形成する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 仕事と子育てを両立できるなど、子育てしやすい環境やサービスを充実する</li> <li>② 公園など都市基盤において、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを圏域全体で進める</li> <li>③ 福祉や防犯、防災などの地域課題に取り組み、地域の安心を支える主役としての地域コミュニティを再生する</li> <li>④ 大都市の都心大規模ターミナルと各地方拠点との公共サービスの拡充を進める</li> <li>⑤ 日常的な医療機関は各生活圏に整備し、高度の医療機関は近畿圏の中核となる都市に整備する。あわせて、ドクターヘリ等を圏域全体に整備することで、どこに住んでいても高度医療が速やかに受けられる体制を構築する</li> <li>⑥ 通勤・通学・通院・郵便等の混合輸送によりモビリティ(地域の足)を確保するとともに、これらを活用して行政・医療・福祉等の出張サービスを行い、限界集落等においても一定の利便性を確保する</li> <li>⑦ 地域が中心となり、子供が社会の中で幅広い学習や体験ができる場を整備する</li> </ol> |

## 7. 産業・暮らしを支える災害に強い安心・安全圏域

| 「近畿圏の目指す姿」   | 「戦略」(各機関からの提案内容)  |
|--|---|
| <p>○関西全域が、東南海・南海地震や直下型などの地震、さらに台風、高潮、豪雨・豪雪等の自然災害に対して強く、安心して生活し、働ける圏域となる。</p> <p>○防災・減災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた、国内およびアジア・太平洋地域に貢献する国際防災拠点を形成する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 災害に対して強いまちづくりを進める</li> <li>② 圏域でのハード・ソフトでの防災・災害対策を進める</li> <li>③ 平常時は研究交流等、非常時は救済拠点として機能し、アジア太平洋地域の安全に貢献する国際防災救援拠点を整備する</li> <li>④ 重大事故、犯罪・テロ、感染症に対応する体制を整える</li> <li>⑤ 水・エネルギーの供給体系を整備する</li> <li>⑥ 大都市災害のリスク軽減の観点による都市空間の配置や地方都市への代替機能分担などを進める。</li> <li>⑦ 基幹的防災拠点・広域防災拠点を整備するとともに、交通・情報通信ネットワークを構築することにより、災害発生時に最小限の被害、早期の復興を図る体制を整える</li> <li>⑧ 地域コミュニティが中心となった災害時要援護者(高齢者、障害者、外国人、旅行者等)への災害情報提供システムなどの防災体制を構築する</li> <li>⑨ 各種業界と地方公共団体の間や、地方公共団体間での災害協定の締結により、災害時に相互協力できる体制を構築する</li> </ol> |

※ 戦略については、各機関から提出された全ての提案等をもとに、同種の内容のものを集約した上で、表現を整理して記載しています。  
 なお、各機関から提出された提案の正確な表現については、資料5-2「各機関戦略集約表」を参照して下さい。